

タンパク質における強い“弱い相互作用”の構造と機能

高妻孝光 教授

茨城大学大学院理工学研究科量子線科学専攻 &
フロンティア応用原子科学研究センター



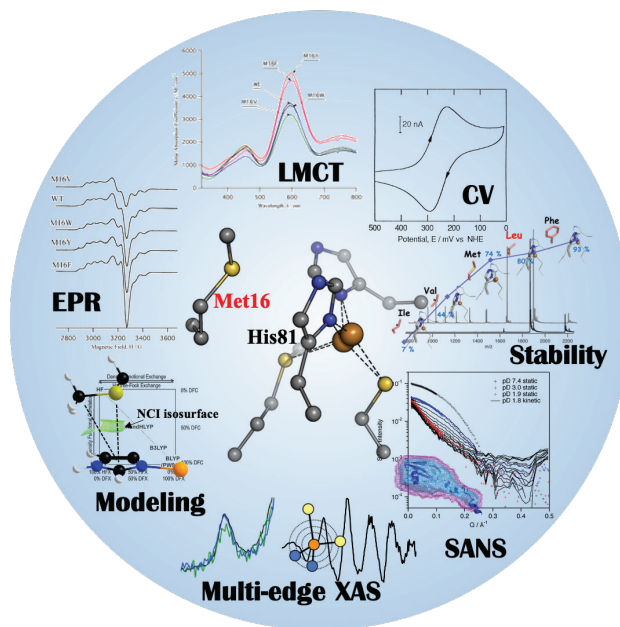
日時： 2020 年 9 月 15 日(火) 16:30~18:00

場所：北海道大学大学院地球環境科学研究院 D201 および

オンライン開催: Zoom (ID: 949 6108 8227; passcode: 778754)

Abstract :

非共有結合由来の“弱い相互作用”はタンパク質において重要な役割を担う。特に、金属タンパク質内部の金属イオンの第二配位圏における弱い相互作用は、配位構造だけでなく、反応性といったタンパク質の機能面においてまで影響を及ぼすことが知られている。最近、我々の研究グループでは、脱窒菌の亜硝酸還元酵素と一酸化二窒素還元酵素への電子伝達タンパク質としてはたらくブルー銅タンパク質、シュードアズリン (Paz) において、弱い非共有結合相互作用がタンパク質の局所構造だけでなく、タンパク質全体の安定性にも影響を及ぼすことを明らかにした。本講演では、タンパク質構造や機能とタンパク質内部の強い“弱い相互作用”との関連性について議論する。



主催：北海道大学大学院環境科学院

共催：公益社団法人日本化学会 北海道支部

協賛：物質科学フロンティアを開拓する Ambitious リーダー育成プログラム

連絡先：世話人 北海道大学大学院地球環境科学研究院 八木 一三 (TEL:011-706-4526)